南東京特集

人や企業とのつながり作る金融機関

中小企業の健全な育成発展を支援

城南信用金庫

城南信用金庫は東京都と神奈川県に85店舗を展開する。「中小企業の健全な育成発展」、「豊かな国民生活の実現」、「地域社会繁栄への奉仕」の三つのビジョンを掲げる。中小企業に対しては、単なる融資にとどまらず「健全な育成発展」に向けた支援体制を打ち出している。

城南信用金庫が近年、特に力を入れているのがビジネスマッチング。2012年11月に東京ドームで東京都と東北地域を中心とした63信用金庫の共催によるビジネスマッチング「よい仕事おこしフェア・第1回」を開催した。企業や人とのネットワークを形成し〝良い仕事〟を生み出すことを目的としている。マッチングの効果は徐々に出てきており、東北地域と都内企業との間で商談がまとまった事例も生まれている。

また海外進出を検討している中小企業への支援にも力を入れる。13年10月にインドネシア投資調整庁（BKPM）と、日本企業のインドネシア進出に関する支援業務で提携した。インドネシアに進出を検討する顧客をBKPMに紹介することで、進出に関する手続きを円滑化する。今後、ベトナムなど他の東南アジア諸国連合（ASEAN）各国と契約し、日系企業の海外進出をサポートする。今後、さわやか信用金庫や芝信用金庫など他の信金と協力して進める考えだ。

また13年12月には広島信用金庫と岡崎信用金庫と連携し「アジア・コミュニティー・ファイナンス・イニシアチブ（ACFi）」を設立した。ASEANの地元の金融機関に、日本の信金制度や管理のノウハウなどを教える。企業のコミュニティーを形成するといった信用金庫の役割や意義をASEANに伝導していく。

企業の大切な経営資源である『人材』をサポートする取り組みにも力を入れる。13年10月から大手企業を退職した人材と中小企業とをマッチングさせる「新現役交流会」を始めた。豊富な経験やノウハウをもつ大手企業OBが中小企業の顧問などに就任し、新しいビジネスチャンスにつなげる。就職希望の大学生が専用のマッチングサイトを通じて中小企業に1、2週間のインターンシップ（就業体験）ができる制度も運営している。現在は全国の17大学と提携し、中小企業とのマッチングを行っている。

ビジネスマッチング「よい仕事おこしフェア」で、企業や人とのネットワークを形成し〝良い仕事〟を生み出す

吉原 毅理事長に聞く

出会いの場を提供

—14年度の目玉イベントは何でしょうか。

「全国268信金とその取引先である中小企業600社以上を一堂に集めたフェアを11月12、13日に開催する。今もっとも力を入れているイベントだ。また3信金が共同で設立したACFiを通じ、ASEAN地域と共存共栄の関係を目指す」

—医工連携の支援にも取り組み始めましたね。

「昭和大学医学部と提携し、意欲的な中小製造業を同大に紹介し、医療機器を開発する取り組みを始めた。金属加工など高度な技術をもつ中小企業の可能性を広げたい。募集をかけたところ、100社が手を挙げており、これからも増えていくだろう。こうした出会いの場をうまく提供していきたい」

城南信金では中小企業への融資だけでなく、ビジネスマッチングなど人と人とのネットワークを重視する。吉原毅理事長に最近の取り組みを聞いた。

◇　◇

—最近のビジネス環境はいかがでしょうか。

「円安のおかげで輸出産業が好調だ。国内では住宅関連が良くなっている。また家電にも復活の兆しがあり、消費も増えてきている」

目黒区

中目黒や自由が丘をはじめとするおしゃれな商業地を擁する目黒区。同区では2014年に区民、事業者、行政などが協力し、桜の保全や更新を進めるための寄付金の受け皿となる「サクラ基金」を創設する。

区内には2300本の桜の木があり、この中の1000本が今後10年で樹齢60年を超えるため整備基金が必要だ。同区では目黒川、碑文谷公園、九品仏川緑道などの桜の名所を地域の観光資源として育て、「目黒ブランド」として確立するビジョンを立てている。同区のブランド力を発信し、区民や観光客による消費活動などで地域経済の活性化を図る。

「サクラ基金」創設

観光資源育て地域活性化

そのほか同区では街歩きを中心とする観光講座や友好交流都市観光物産展の開催などにかかる事業費を補助するなど観光資源を育てる取り組みを行っている。

日本政策金融公庫大森支店

ビジネス環境上向く

幅広く中小企業支援

展示会や海外展開も

東京都大田区は全国でも有数の中小製造業集積地の一つ。その大田区で中小企業への支援を行う日本政策金融公庫大森支店（東京都大田区）の吉田久支店長は「13年10月くらいからようやくビジネス環境が良くなってきた」と話す。

日本公庫は12年からインターネットビジネスマッチング事業を行っている。自社の技術や製品などを会員制ホームページ（HP）に登録し、興味を持ってくれる企業を待つ仕組み。現在の同支店の登録企業数は64社。吉田支店長は「毎年30社ずつ増やしたい」と意気込む。展示会にも力を入れる。25日にはパシフィコ横浜（横浜市西区）で「第6回全国ビジネス商談会」を実施する。13年は来場者1700人で、今回はこれ以上の来場者を目指している。

また中小企業の海外進出も後押しする。「ここ1年ほどでタイやインドネシアなどへの海外展開資金の相談が増えており、企業が新市場を求めているのを実感している」と吉田支店長は話す。そこで中国や東南アジア諸国連合（ASEAN）の国々のセミナーを実施し、顧客のニーズに応えている。

また日本公庫は13年秋から、中小企業が海外金融機関から現地通貨建てで資金調達できる「スタンドバイ・クレジット制度」を地銀や信用金庫といった地域金融機関が利用できる枠組みを整えた。地域金融機関に代わり、融資を受けるために必要な信用状を日本公庫が発行する。海外進出支援に積極的な地域金融機関の橋渡し役を担い、中小企業の海外展開を応援する。同支店では「今後、中国などで展開していきたい」（吉田支店長）考えだ。

東京産学交流会入会のご案内

◇ご案内◇

ビジネスチャンスの拡大と技術のレベルアップのために入会をお勧めします!!

東京産学交流会（通称：サザンクロス）は、南東京地域の中堅・中小企業17社と、芝浦工業大学、東京都市大学、東京都立産業技術高等専門学校で組織された産学交流組織で、会長を渡邊佳英大崎電気工業会長が務めています。

93年にSIT産学交流組織として発足。「第二の創業」をコンセプトに、南東京地域の産業を盛り上げるため、産学交流に着目した活動を続けています。

月に1回、ビジネスチャンス拡大のために、講演会や工場見学会などの定例会を実施しています。異業種、異分野同士で交流を進め、モノづくりへの理解を深めていきます。

産学交流を推進して会員企業の技術レベルを上げ、地域産業の発展に寄与する事を目指しています。

◇入会の手続き◇

経営者の皆様をはじめ、理工系大学や自治体の方々が自由に集まり、親睦を深める東京産学交流会にぜひ、ご入会ください。

お申し込みは下記の事務局へご連絡ください。

年会費 76,000円

第一線研究者による成果発表会やセミナー、懇親会などを通じ、最新技術の動向にふれることができる

東京産学交流会 事務局
〒144－0052 東京都大田区蒲田5－46－1 秋元ビル4階
日刊工業新聞社 南東京支局内
TEL03(3732)5451　FAX03(3732)5453